

支配の教壇

純情無垢な女教師たち



黒瀬糸由
水島☆多也
梅島うりり



鹿島理沙子

risako kashima

真面目で学生思いの美人教師。凛とした立ち振る舞いとひたむきな態度から、学園内の誰もが憧れる存在。学生時代に勉強漬けだったせいで、流行の察知に鈍感であったり、世俗的な知識に疎い。

滝沢萌果

moeka takizawa

明朗快活な女性教師。小柄な体に不釣り合いな巨乳の持ち主。子どもっぽい外見は自他ともに認めており、特に不満もないが、心の奥底では『大人の女性』らしさに強い憧れを抱いている。

5 プロローグ 二匹の奴隷

数年前に創設された藤柳学園の普通教室。椅子に座る男子学生に、全裸の女性が足を淫らに大きく広げて跨がっていた。

「アツツ！ あふうう！ 気持ちいい、いいっ！ ご主人様……ああ……」

根元まで男根を呑み込み、女性は男子学生に抱きつきながら身体をくねらせる。腰を動かし自らの淫裂へと何度も何度も突った肉棒を突き挿れ、淫蜜を溢れさせた。溢れているのは淫蜜だけではない。大人の頭ほどもありそうな巨大な乳房の先端から白い液体が漏れ、女性の柔肌を濡らしている。

「ンツ！ あああっ……はふっ、ふああアツ！ オチンポお、オチンポ気持ちいい！」

「ふっ……。すっかりチンポの味を覚えちゃったな。ええ？ 松原先生？」

快感に表情を歪ませる女性は学園の教師「松原美璃亜」。学園理事長と父親が昵懇なため横暴な態度を取り続け、学生からも一部教師からも「女帝」と怖れられている。そんな美璃亜も彼の前では肉欲を貪欲に求める肉奴隷でしかなかった。

男子学生の名前は「坂下吉之」。妖しげな笑みを浮かべ、快感によがる女教師を眺めている。彼に隷属しているのは美璃亜だけではない。

プロローグ 二匹の奴隷



花守琴実
kotomi hanamori

松原美璃亜
miria matsubara

プロローグ	二匹の奴隷	5
第一章	幼い羊 滝沢萌果・1	7
第二章	逃げ出せない快楽の罠 滝沢萌果・2	39
第三章	性楽の沼、堕ちる 滝沢萌果・3	89
第四章	何も知らない羊 鹿島理沙子・1	119
第五章	妖艶なる学修 鹿島理沙子・2	170
第六章	淫愛に封された女教師 鹿島理沙子・3	227
エピソード	性愛の庭	267

「アッ……あふう……松原先生い……気持ち良さそう……あつ……ああ……」

激しく蠢く美璃亜の痴態を見つめながら、全裸の女性が自分の股間を激しく愛撫していた。ぱっくりと開いた裂け目からは、止めどなく淫汁が漏れ、足下には大量の淫水溜まりができあがっていた。

「琴実はそのまオナニーしてる。気が向いたら指でも挿れてやる」

「ひうつ……。そんなあ、私も……。私も……。オチンポ欲しいです……。ご主人様あ」

残酷なお預けに花守琴実は涙を流しながら、命じられた通りに自慰を続けた。ご主人様の気まぐれな「お情け」を期待して。

吉之は学園の問題児として教師や学生達には知られ、停学処分を受けたことがある。だが、その停学処分は学園側の都合によるものであり、吉之には冤罪だった。

普通の学生ならばその一事だけで退学したかもしれない。だが、吉之はそれをチャンスと捉え、琴実を騙してその処女を奪った。続いて横暴な態度を取ってきた美璃亜を脅迫して墮とし、快感漬けにしたのだ。

「あつ！ あつ……。いく……。イキます……。ご主人様の……。オチンポでえ……。くつ、くう！」

「ふあ……。ふあ……。私も……。あ……。だから次は私い……。私をおお……。！」

従順な奴隷と化した女教師達が、吉之に絶頂する様を同時に披露する。その姿を吉之は見つめながら冷笑を浮かべた。

「ふふ……。こいつらで終わりじゃないぞ……」

第一章 幼い羊 滝沢萌果・1

放課後、吉之はグラウンドにいた。様々な部活が汗を流すなか、彼が関心を寄せたのは陸上部だった。

走り終えた女子達が、汗ばんだ身体のまま手足を伸ばしストレッチをしている。競技用の短パンは極めて短く、彼女達をオカズにしたい男子学生達はチラチラと視線を送っていた。

だが、オトナの女を好む吉之にとって彼女達は興味の対象外だ。

「はい、お疲れ様ー！ みんないい感じだったよー！ でも、アドバイスあるから、ちよっと集まってー！」

ジャージ姿の女性が大きな声で部員達を呼び寄せた。一見すると学生達より幼い少女のようだが、藤柳学園の女教師「滝沢萌果」だった。

「お疲れ様ー。みんないい感じだったよー！ でもね身体の使い方が……」

陸上部顧問として身振り手振りでアドバイスをしているが、幼い容姿のせいで可愛らしく見えてしまう。部員は真剣に聞いているが、周囲は萌果を慈しむような目で見ている。

「ほう……」